

“川添「お茶と農園・レストラン」で地域に活力”

川添生活圏(白浜町)

現 況

【人 口】532人【集 落 数】10集落【高齢化率】52%
【世 帯 数】283世帯【高齢者一人暮らし世帯】139世帯
【施 設 等】役場出張所、川添診療所、市鹿野郵便局、商店
JA紀南市鹿野支所、ガソリンスタンド
市鹿野小学校、川添中学校(廃校)
市鹿野保育園(休園)

【主産業】農業(お茶、稲作、花木類)
耕作面積:18ha
(田8ha 畑10ha)
耕作放棄地 9ha 販売農家:55戸
【鳥獣被害】シカ、イノシシによる被害が大きい
【特 産 品】お茶、菊、鮎、花木類など
【地域資源】川添まつり(11月)

【生活環境】
・路線バス 3路線 2~4往復/日
・川添診療所の無料送迎バス
・移動販売2業者(主に食料品)
・商店3店(乾物、飲料などが中心)
・ガソリンスタンド1店
・川添診療所:週5日(内科、外科、小児科)

課 題

地域資源の生産・加工・販売までの取組みや遊休施設の活用ができていない

- ・地域のマンパワーが不足し、耕作放棄地が解消できていない
- ・遊休施設の有効利用ができていない

地域内外の交流が希薄である

- ・地域交流の拠点が無い
- ・体験等を活用した地域内外との交流が不足



交流拠点・機会の創出

総合対策



《1. 地域産品の生産・加工・販売対策》 7,240千円 耕作放棄地、遊休施設の活用で「県福祉事業団」と連携

- 主体:【川添緑茶研究会、川添加工グループ、農産物生産グループ、県福祉事業団、JA】
- (生産)・地域住民と福祉施設通所者が協働で耕作放棄地を再生し『川添農園』を整備(米、大豆、餅米、お茶などを生産)
・新農林水産業戦略プロジェクトの成果であるお茶“べにふうき”を生産
- (加工)・地域住民が活性化センターを加工所として再生し、地元産品のお茶等を活用した『川添弁当』を製作、川添農園の作物を利用した加工品(茶餅、茶菓子、味噌等)を製作
・県福祉事業団は川添保育所(遊休施設)を利用し、農園で生産した作物を袋詰め作業し製品化する。農園で生産された餅米でかき餅などに加工
- (販売)・活性化センターを利用し、加工品等を『川添市場(月1回)』にて販売
・産品販売所(コーナン、紀菜柑など)での販売
・農産物の集出荷サポートシステムを構築(1回/週)
・地域の一人暮らし高齢者などに安否確認なども兼ねた「川添弁当」の配食サービスの実現



川添弁当イメージ

《2. 地域の食文化を通じた活性化対策》 6,810千円 地域産品を使った田舎料理と地域交流の活性化

主体:【川添加工グループ、民泊グループ】

- (地域内交流)
・地域内の拠点として「川添レストラン」を創設し、郷土料理やお茶を使った料理などを提供するとともに地域の高齢者を支える
- (地域外交流)
・現在好評である農家民泊を更に魅力あるものにするため、お茶の生産工程などの体験に加え地域外との交流を図る
・耕作放棄地をセットにした移住推進対策(地元農業者が講師として農業指導)



川添レストラン(交流拠点)候補地



田舎料理でおもてなし

④目指すべき姿

- 地域資源を活用して地域に活力を!
- 魅力を発信し、交流の推進で住民を元気に!
- 高齢者、障害者との連携による安心・生きがい!

【事業期間】H24~H26

【事業主体】川添活性化プロジェクト(寄合会)、川添加工グループ(仮称)
農産物生産グループ(仮称)、友の会、民泊グループ、ボランティアグループ
川添まつり実行委員会、川添緑茶研究会、県福祉事業団

全体事業費 14,050千円

県	6,875千円
町	6,875千円
地元	300千円